

沖縄県における導入暖地型牧草の適応品種選定試験 (2001～2005年)

(1) 成育特性および乾物収量の比較

望月智代<sup>2)</sup>・守川信夫<sup>1)</sup>・長利真幸<sup>1)</sup>・當眞嗣平<sup>3)</sup>・真境名元次<sup>4)</sup>・〇花ヶ崎敬資<sup>1)</sup>  
(沖縄畜研<sup>1)</sup>・沖縄県工業技術センター<sup>2)</sup>・沖縄県家畜改良センター<sup>3)</sup>・沖縄農研<sup>4)</sup>)

【目的】

沖縄県は亜熱帯海洋性気候に属しており、台風や干ばつなどの自然災害を受けやすく、他県には見られない特殊な土壌が分布している。今後の沖縄県の肉用牛生産振興には、自給飼料増産と品質向上が最も重要な課題の一つとされているなか、暖地型牧草の高位生産のためには、本県の気象・土壌条件に適した品種を選定する必要がある。これまで19草種45品種の牧草が沖縄県の奨励品種に選定されているが、生産の安定化を図り、また採草・放牧などの利用目的に合わせた草種・品種を新たに導入する必要がある。そこで本試験では沖縄本島北部の国頭マージ土壌において、沖縄県の奨励品種とこれまで十分に検討されていない品種、計18品種を用いた適応品種選定試験を行なったので報告する。

【材料および方法】

供試品種として、沖縄県の奨励品種を6品種含めた合計18品種を用いた。

生育特性調査として発芽率、発芽良否、定着良否、草丈を調べた。発芽率はガラスシャーレに蒸留水で湿らせたろ紙を入れ、50粒の種子を乗せたものを2反復し、2週間後の発芽数を調査した。発芽良否、定着良否はそれぞれ播種2週間後および5週間後に、観察によって「良」を1、「不良」を9とする9段階で評価した。

第1表 暖地型牧草18品種の生育特性および乾物収量の比較

品種名	発芽率 (%)	発芽状況 (2週間後)	定着状況 (5週間後)	合計乾物収量 (t/10a)
シグナルグラス	17	2.7	2.7	14.8
クリーピングシグナル	0	8.0	7.3	12.9
ブッフエルグラス「USA」	0	4.0	3.3	10.3
ブッフエルグラス「ビオーエラ」	21	2.0	3.3	11.6
ローズグラス「カリーデ」(奨)	34	2.0	2.0	12.3
ローズグラス「カタンボラ」(奨)	11	2.0	2.0	11.6
ジャイアントスターグラス(奨)	-	-	4.0	12.1
パンゴラグラス「トランスパー」(奨)	-	-	4.0	11.1
ジャラグラス	31	2.7	3.3	9.3
ブルーコーチ	6	8.0	6.0	8.3
モラセスグラス	8	3.0	2.0	-
ギニアグラス「ガットン」(奨)	31	2.0	3.3	13.7
ダリスグラス	1	6.0	6.0	6.9
セタリア「カズングラ」	0	8.0	6.0	13.8
セタリア「パープルピジョン」	1	4.0	4.7	13.9
グライシン「チナール」(奨)	17	2.0	4.0	6.8
クサネム「リー」	0	2.7	3.3	-
クサネム「グレン」	2	2.0	3.3	-

注) (奨)は沖縄県奨励品種

収量調査として乾物収量を調べた。刈取りは4月から10月までは40日ごとに、11月から3月までは50から60日ごとに全区一斉に行なった。草丈は刈取時に1区当たり8カ所測定し、刈取りは地際から約10cmで行なった。刈取った生草は72℃で48時間乾燥後、乾物率を求め、乾物収量を算出した。

【結果および考察】

1 生育特性調査結果

2週間後の発芽率調査で、発芽率は全体的に34%以下の値で、特に16品種中7品種が0～2%と非常に低かった。

発芽状況および定着状況では、シグナルグラス、ブッフエルグラス「ビオーエラ」、ジャラグラス、モラセスグラス、クサネム「リー」およびクサネム「グレン」については数値が2以上4未満であり良好な結果が得られた。

2 収量調査結果

モラセスグラスは2002年に株枯れとなり調査を中止した。また、クサネム「リー」とクサネム「グレン」についても2002年から生育が低下しそのまま衰退したため調査を中止した。

2002年から2005年の4年間における合計乾物収量は、シグナルグラスが14.8t/10aと最も高い値を示し、次いでセタリア「パープルピジョン」が13.9t/10a、セタリア「カズングラ」が13.8t/10a、

ギニアグラス「ガットン」(奨励品種)が13.7t/10a、クリーピングシグナル12.9t/10aであった。よって、乾物収量の観点から暖地型牧草として有望視された品種は、シグナルグラス、セタリア「パープルピジョン」、セタリア「カズングラ」、クリーピングシグナルであった。